大阪府立布施工科高等学校　令和６年度　学校教育自己診断の結果と分析（令和６年 12 月実施）

【学校生活】「学校が楽しい」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	76 %	79 %	82 %	+3
保護者	77 %	82 %	80 %	−2

□日ごろの学校生活を通して、生徒と保護者の肯定率は 80％に到達した。今後も授業や資格取得、クラブ活動を通して学校に来て楽しいと思える魅力ある取り組みを実施していく。

【学習指導】「わかる授業」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	87 %	85 %	85 %	±0
教職員	95 %	98 %	92 %	−6

□教員同士の授業見学や研究授業で教材研究を行い、授業の工夫・改善に取り組みを行った。一人一台端末の活用の授業を行い、生徒の理解度に成果が表れている。今後も継続的に教員が生徒に成長を促す、「わかりやすい授業づくり」を推進する必要がある。

【生徒指導】「適切である」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	79 %	81 %	84 %	+3
保護者	83 %	86 %	86 %	±0

□本校の生徒指導が「適切である」という理解が 80%以上得られている。今後も生徒・保護者の期待する的確性や客観性に基づいた指導を実践し、家庭との連絡を密にとりながら、より一層個々の生徒に合わせた丁寧な生徒指導を行う必要がある。

「納得できる」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	82 %	84 %	83 %	−1
保護者	82 %	85 %	86 %	+1

□「生徒指導について納得できる」について生徒・保護者の肯定が共に約 80%以上を維持している。
定期的な集会での注意だけでなく、ホームルームを通して丁寧に説明している。、今後も生徒･保護者の理解のもと、社会でのマナーやルール遵守の大切さについて生徒指導を行っていく。

【キャリア教育】「インターンシップ等の取組み」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	65 %	72 %	73 %	+1
保護者	94 %	96 %	95 %	−1

□今年度の「インターンシップ」は、2年生の全員が取り組みで実施することができた。学校外で実践的に学べる経験が、肯定意見の増加につながり、「インターンシップ」に対する満足感が大きかったことがうかがえる。令和6年度のデュアルシステムの本格始動に伴い、地域の産業について学ぶ取り組みを実施していく。

【進路指導】「職業観・勤労観の育成」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	93 %	91 %	95 %	+4
保護者	90 %	93 %	93 %	±0

□年度ごとのキャリア教育の積み重ねで、肯定的な評価が 90%台を維持している。引き続き、望ましい職業観・勤労観の育成の充実を個々の生徒に合わせて、丁寧に行う必要がある。

【人権教育】「学ぶ機会が多い」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	92%	92%	95 %	+3
教職員	88%	81%	86 %	+5

□人権教育は、あらゆる教育活動のベースとなる。生徒への人権教育の機会を設け、90%を維持している。今後も、ホームルーム活動を通して、私たちは互いに違いを認め合い、共に学ぶ学校を築いていく教育活動を推進していく必要がある。

【いじめ】「いじめ対応」

肯定的評価

	R4	R5	R6	±
生徒	88 %	90 %	91 %	+1
教職員	100 %	94 %	78 %	−16

□「いじめは絶対に許されるべきものではない」という気持ちを学校全体で醸成し、「いじめ見逃し０」を念頭にいじめの未然の防止対策を実施し人権指導を実施していくことが重要である。生徒は 90%を超える肯定的評価を維持し、教職員ではいじめ対応について改善の取り組みを行い、「安全で安心な学びの場づくり」を学校全体で行う必要がある。